

調査結果の概要

1. 調査概要

(1) 調査目的

子ども・子育て支援法に基づく「大和郡山市子ども・子育て支援事業計画（第二期）」が令和6年度で計画が終了することから、子育て世帯や若者が抱える問題や課題を把握し、次期計画策定にあたっての基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査の実施について

調査分類	調査の種類	調査対象者	配布数	抽出方法	調査方法
子育て調査	就学前児童調査	就学前の児童のいる世帯の保護者	1,000 件	無作為抽出	郵送による配布、郵送・Webによる回収
	小学生児童調査	小学生の児童のいる世帯の保護者	1,000 件		
若者調査	若者調査	18～39 歳の市民	2,000 件		
子どもの生活調査	小中学生調査	小学5年生及び中学2年生	1,200 件	市内の小学5年生・中学2年生全員と、その保護者	
	保護者調査	上記児童の保護者	1,200 件		

(3) 配布数・回収数・回収率

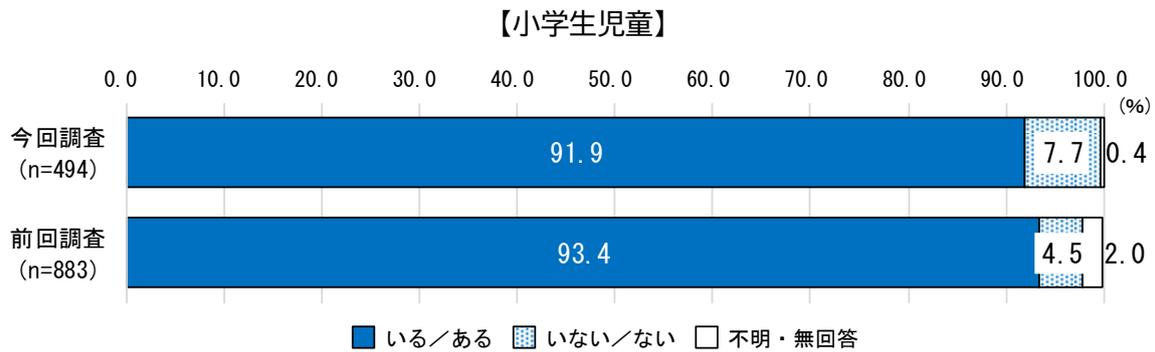
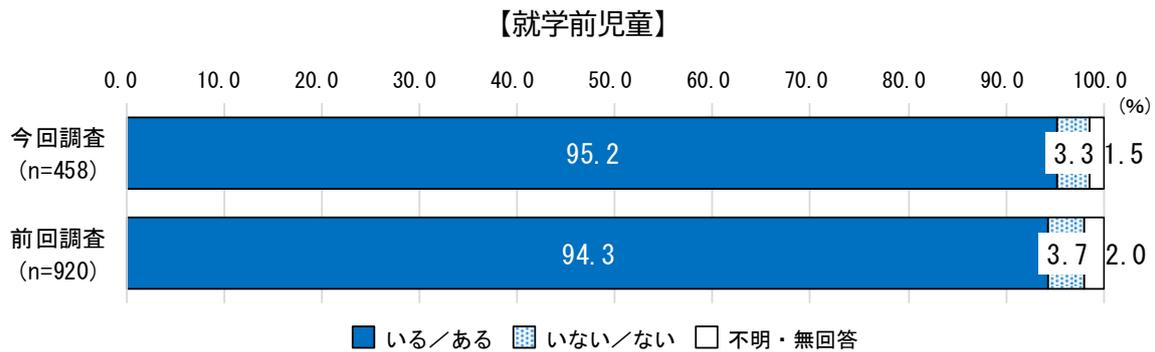
調査分類	調査の種類	配布数	回収数	内訳		回収率	内訳	
				紙	ネット		紙	ネット
子育て調査	就学前児童調査	1,000 件	458 件	324 件	134 件	45.8%	32.4%	13.4%
	小学生児童調査	1,000 件	494 件	342 件	152 件	49.4%	34.2%	15.2%
若者調査	若者調査	2,000 件	549 件	311 件	238 件	27.5%	15.6%	11.9%
子どもの生活調査	小中学生調査	1,200 件	446 件	320 件	126 件	37.2%	26.7%	10.5%
	保護者調査	1,200 件	466 件	320 件	146 件	38.8%	26.7%	12.2%

2. ニーズ調査（就学前児童・小学生児童）の結果

- ① 子育てをする上で、気軽に相談できる先（人・場所など）の有無 <単数回答>
（就学前児童・小学生児童）

子育てをする上で、気軽に相談できる先（人・場所など）の有無について、「いる/ある」が就学前児童で95.2%、小学生児童で91.9%となっています。

前回調査と比較すると、就学前児童、小学生児童ともに、ほぼ同様の結果となっています。



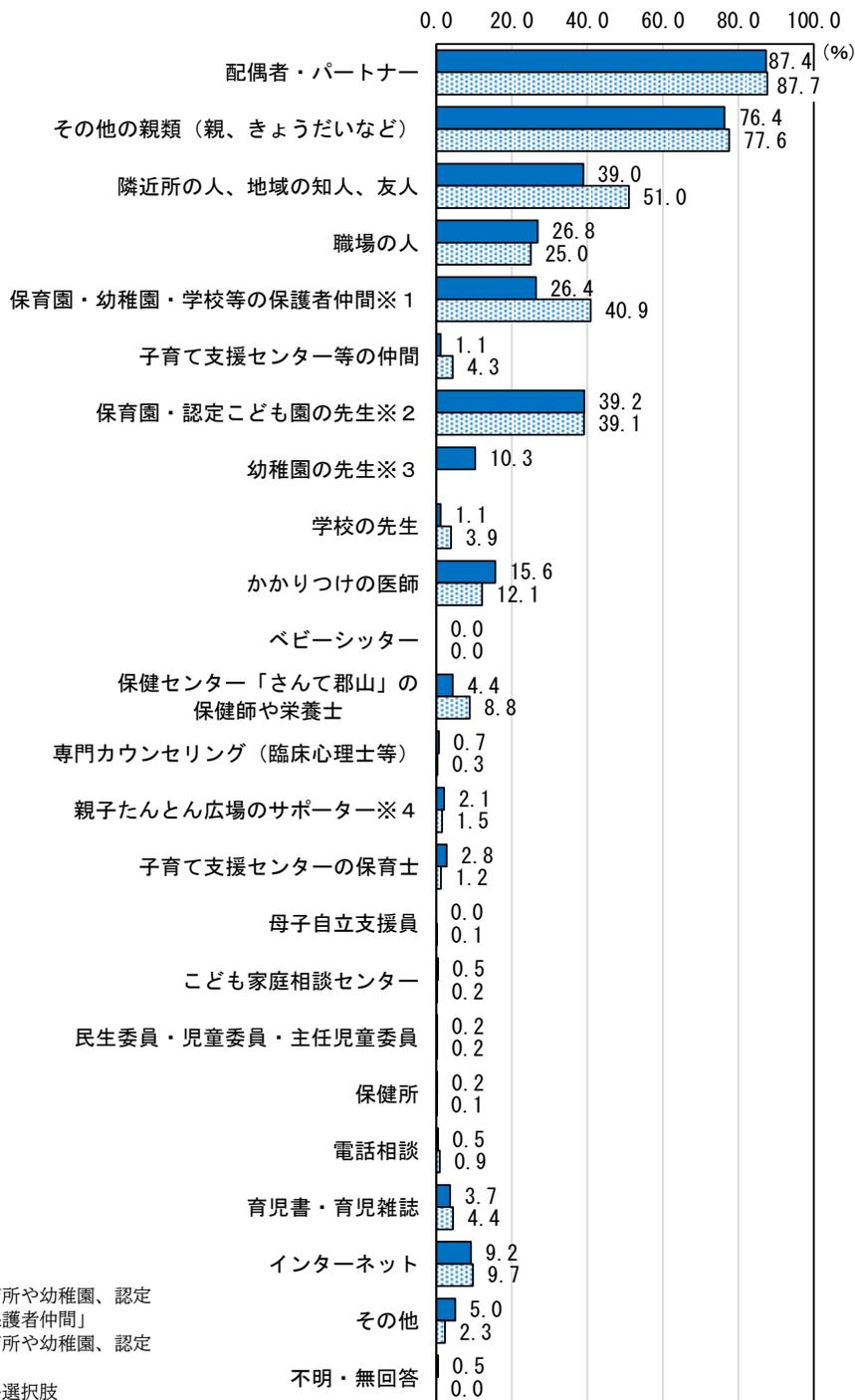
①で「ある／いる」を選んだ方

①-1 気軽に相談できる先 <複数回答> (就学前児童・小学生児童)

気軽に相談できる先について、就学前児童では「配偶者・パートナー」が87.4%と最も高く、次いで「その他の親類（親、きょうだいなど）」が76.4%となっています。

前回調査と比較すると、「隣近所の人、地域の知人、友人」が12.0ポイント、「保育園・幼稚園・学校等の保護者仲間」が14.5ポイント減少しています。

【就学前児童】



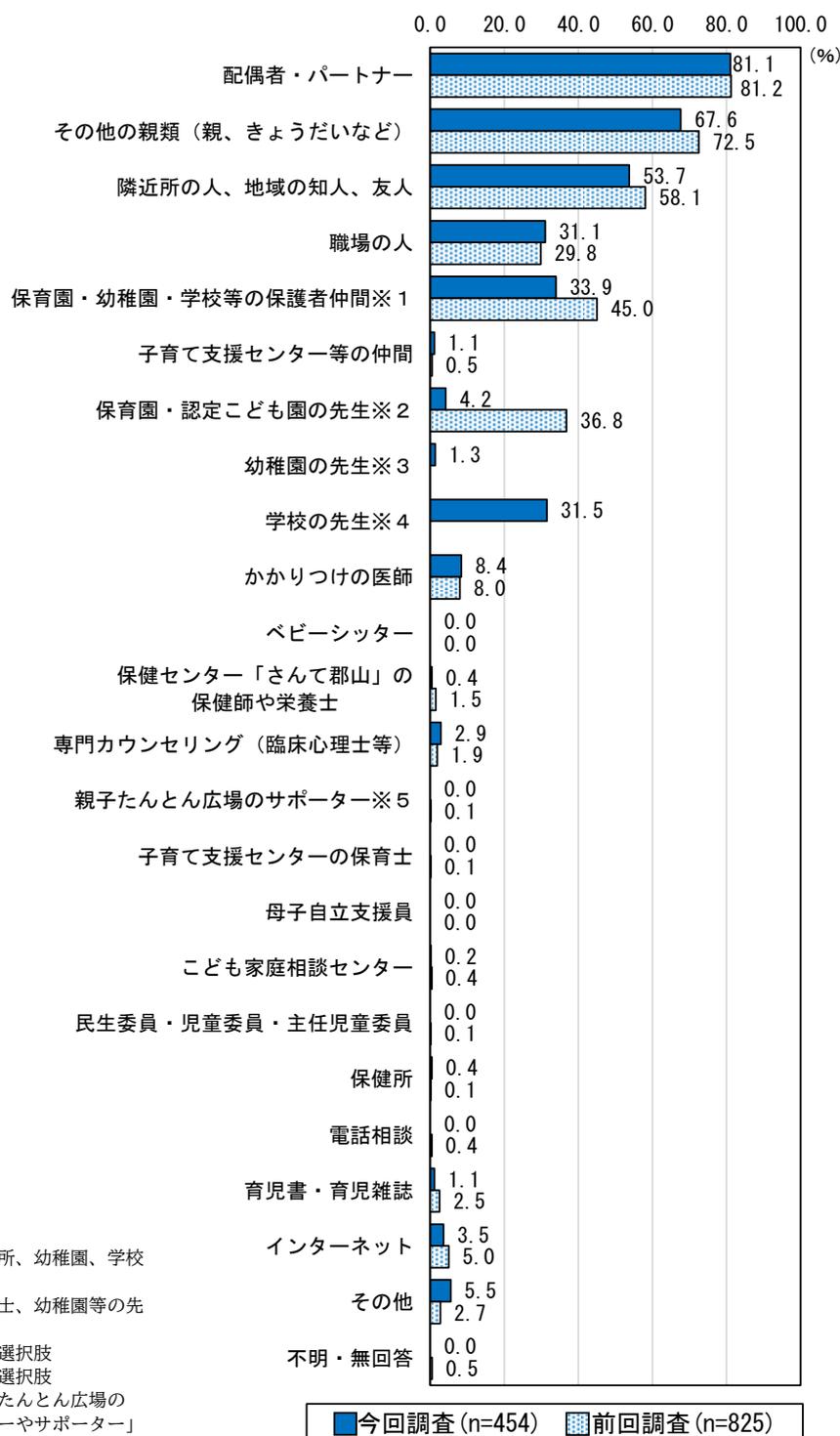
※1 前回調査は「保育所や幼稚園、認定こども園、学校の保護者仲間」
 ※2 前回調査は「保育所や幼稚園、認定こども園の先生」
 ※3 前回調査にはない選択肢
 ※4 前回調査は「親子たんとん広場の家庭教育アドバイザーやサポーター」

■ 今回調査 (n=436) ▨ 前回調査 (n=868)

気軽に相談できる先について、小学生児童では「配偶者・パートナー」が81.1%と最も高く、次いで「その他の親類（親、きょうだいなど）」が67.6%となっています。

前回調査と比較すると、「保育園・幼稚園・学校等の保護者仲間」が11.1ポイント減少しています。

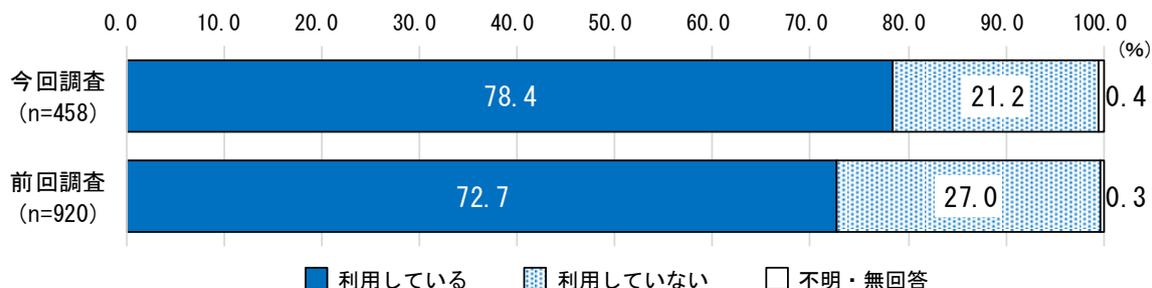
【小学生児童】



- ※1 前回調査は「保育所、幼稚園、学校等の保護者仲間」
- ※2 前回調査は「保育士、幼稚園等の先生、学校の先生」
- ※3 前回調査にはない選択肢
- ※4 前回調査にはない選択肢
- ※5 前回調査は「親子たんとん広場の家庭教育アドバイザーやサポーター」

② 平日の幼稚園や保育園などの定期的な教育・保育事業の利用 <単数回答>
(就学前児童)

定期的な教育・保育事業の利用について、「利用している」が78.4%となっています。
 前回調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。
 子どもの年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「利用している」が多くなっています。



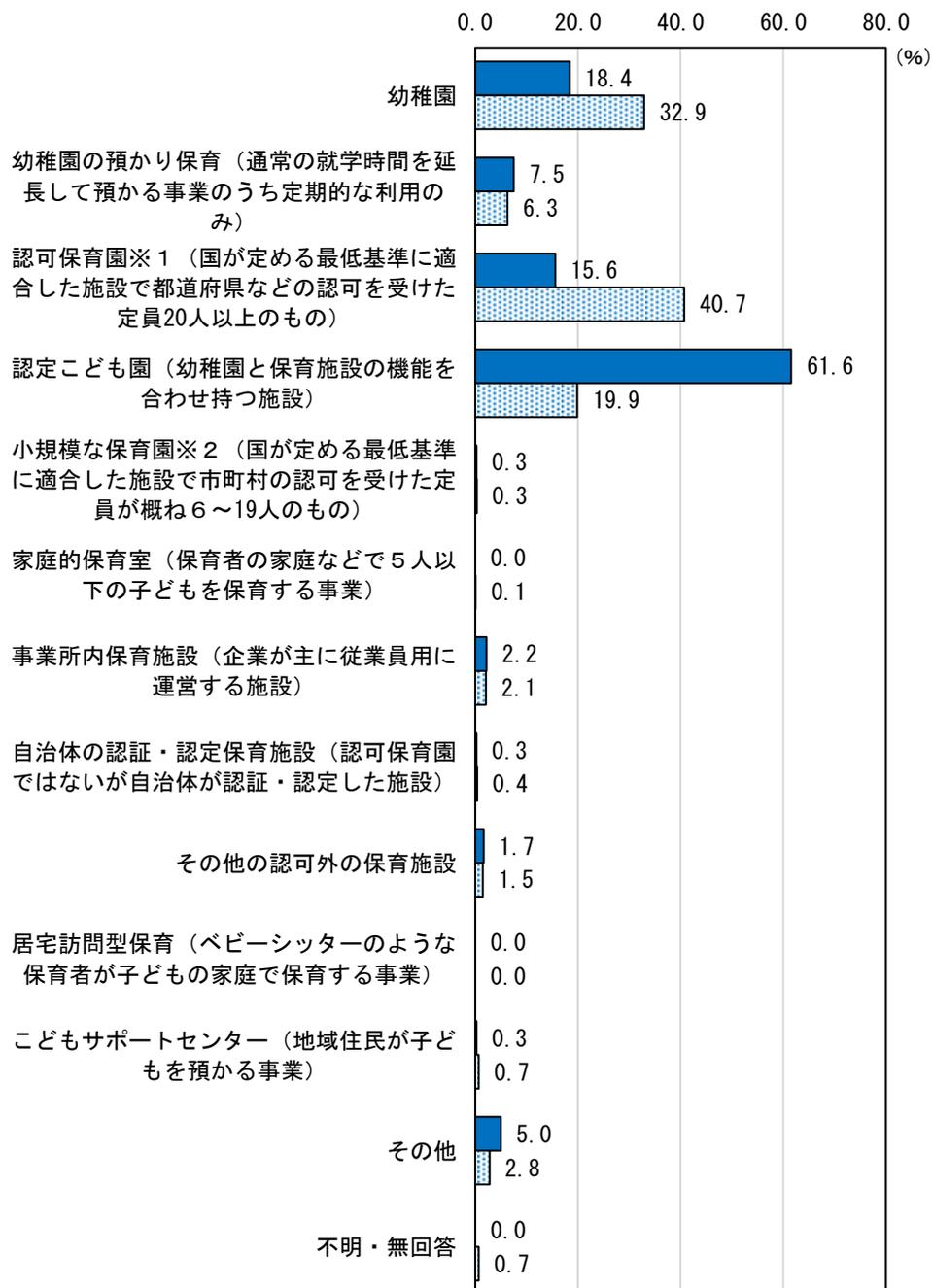
【子どもの年齢別 定期的な教育・保育事業の利用】

	合計	利用している	利用していない	不明・無回答
全体	458	78.4	21.2	0.4
0歳	47	8.5	91.5	0.0
1歳	61	62.3	37.7	0.0
2歳	74	68.9	31.1	0.0
3歳	67	94.0	6.0	0.0
4歳	75	97.3	1.3	1.3
5歳	133	97.7	1.5	0.8

②で「利用している」を選んだ方

②-1 平日に利用している教育・保育の事業 <複数回答> (就学前児童)

平日に利用している教育・保育の事業は、「認定こども園」が 61.6%と最も高く、次いで「幼稚園」が 18.4%となっています。
 前回調査と比較すると、「幼稚園」が 14.5 ポイント、「認可保育園」が 25.1 ポイント減少し、「認定こども園」が 41.7 ポイント増加しています。



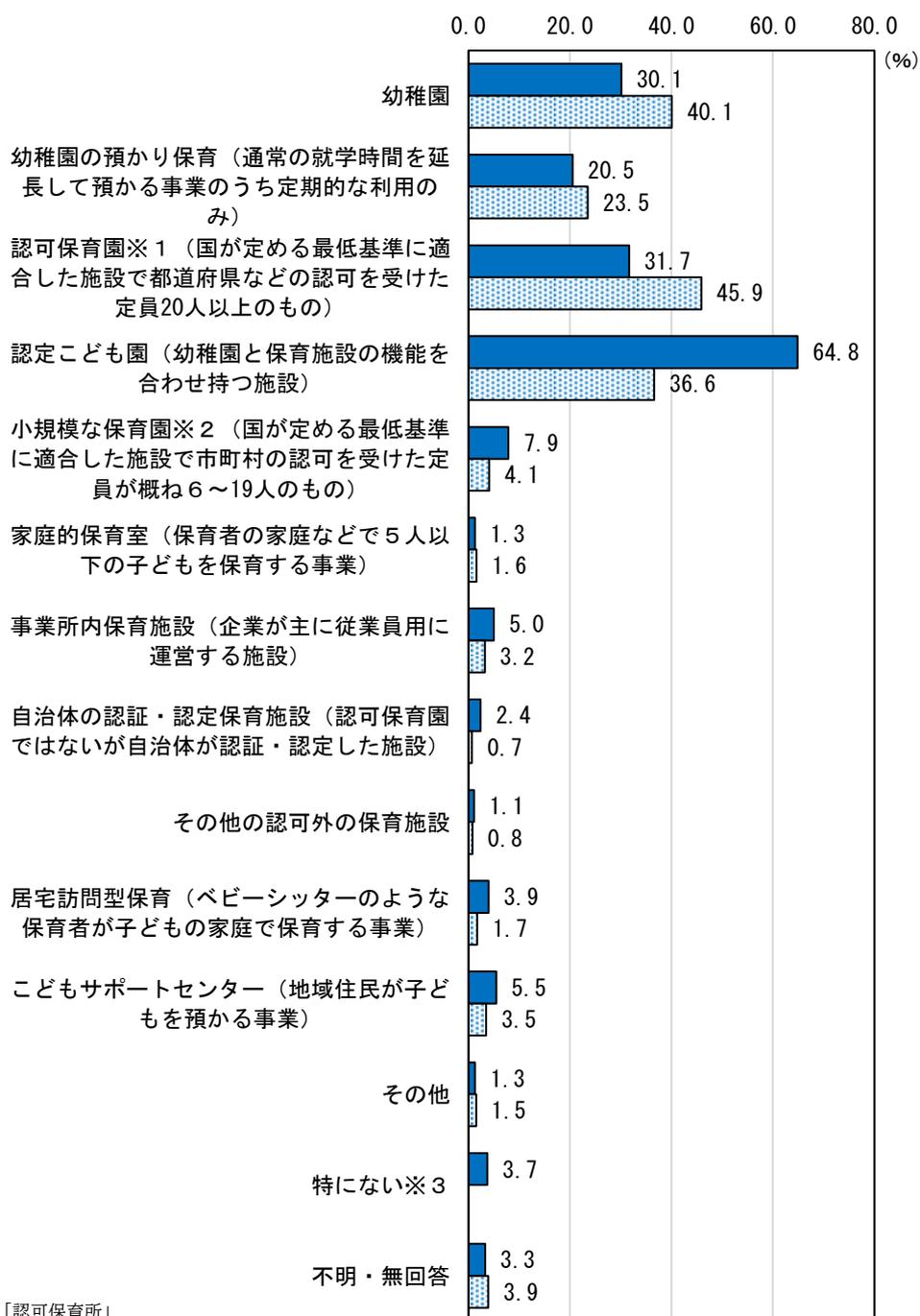
※1 前回調査は「認可保育所」
 ※2 前回調査は「小規模な保育施設」

■今回調査 (n=359) ■前回調査 (n=669)

③ 現在の利用の有無にかかわらず、平日の教育・保育事業として、定期的にご利用したいと考える事業 <複数回答> (就学前児童)

平日の教育・保育事業として、定期的にご利用したいと考える事業は、「認定こども園」が64.8%と最も高く、次いで「認可保育園」が31.7%となっています。

前回調査と比較すると、「幼稚園」が10.0ポイント、「認可保育園」が14.2ポイント減少、「認定こども園」が28.2ポイント増加しています。



※1 前回調査は「認可保育所」
 ※2 前回調査は「小規模な保育施設」
 ※3 前回調査にはない選択肢

■ 今回調査 (n=458) ■ 前回調査 (n=920)

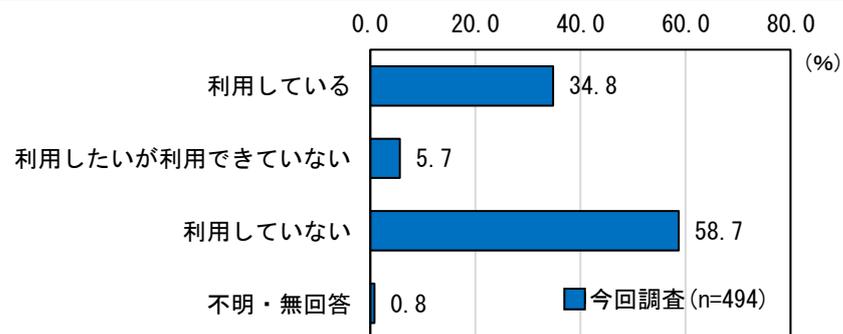
子どもの年齢別にみると、いずれの年齢も「認定こども園」が最も高くなっています。2番目は0歳から3歳では「認可保育園」、4歳と5歳では「幼稚園」となっています。

【子どもの年齢別 定期的に利用したい平日の教育・保育事業】

	合計	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模な保育園	家庭的保育室	事業所内保育施設	自治体の認証・認定保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	こどもサポートセンター	その他	特になし	不明・無回答
全体	458	30.1	20.5	31.7	64.8	7.9	1.3	5.0	2.4	1.1	3.9	5.5	1.3	3.7	3.3
0歳	47	25.5	12.8	51.1	80.9	23.4	2.1	8.5	6.4	2.1	4.3	6.4	0.0	2.1	0.0
1歳	61	31.1	11.5	42.6	78.7	19.7	0.0	8.2	4.9	1.6	9.8	13.1	0.0	0.0	4.9
2歳	74	31.1	24.3	32.4	71.6	6.8	1.4	5.4	1.4	0.0	0.0	5.4	2.7	4.1	1.4
3歳	67	28.4	20.9	35.8	55.2	7.5	4.5	6.0	1.5	0.0	7.5	4.5	1.5	0.0	4.5
4歳	75	36.0	26.7	29.3	60.0	4.0	1.3	1.3	2.7	2.7	2.7	4.0	0.0	5.3	2.7
5歳	133	28.6	21.1	18.8	56.4	0.0	0.0	3.8	0.8	0.8	2.3	3.0	2.3	6.8	4.5

④ 学童保育所の利用 <単数回答> (小学生児童)

学童保育所の利用状況について、「利用していない」が58.7%、「利用している」が34.8%、「利用したいができていない」が5.7%となっています。



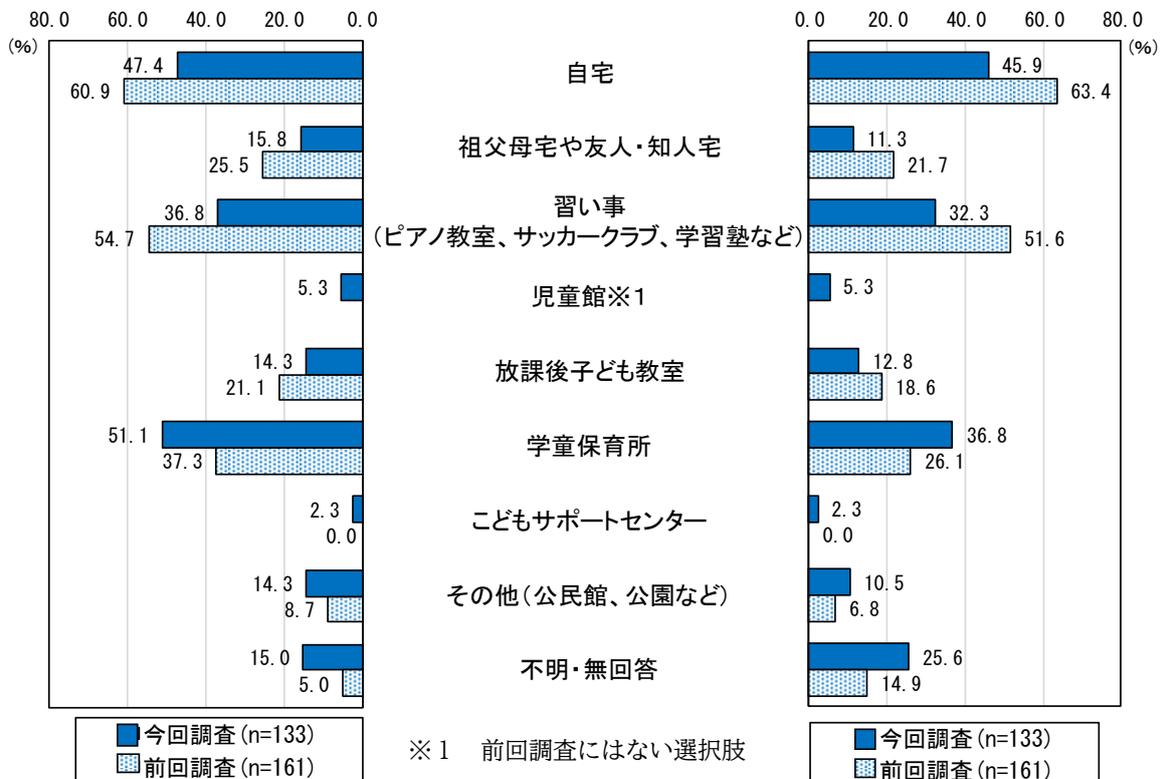
⑤ 子どもが小学生の時に、放課後の時間に過ごさせたい場所 <複数回答>
(就学前児童(あて名の子どもが5歳以上である方のみ))

放課後(平日の小学校終了後)の時間に過ごさせたい場所は、小学校低学年(1~3年生)では「学童保育所」が51.1%と最も高く、小学校高学年(4~6年生)では「自宅」が45.9%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、小学校低学年では「自宅」が13.5ポイント、「習い事」が17.9ポイント減少、「学童保育所」が13.8ポイント増加しています。小学校高学年では「自宅」が17.5ポイント、「祖父母宅や友人・知人宅」が10.4ポイント、「習い事」が19.3ポイント減少、「学童保育所」が10.7ポイント増加しています。

【小学校低学年(1~3年生)】

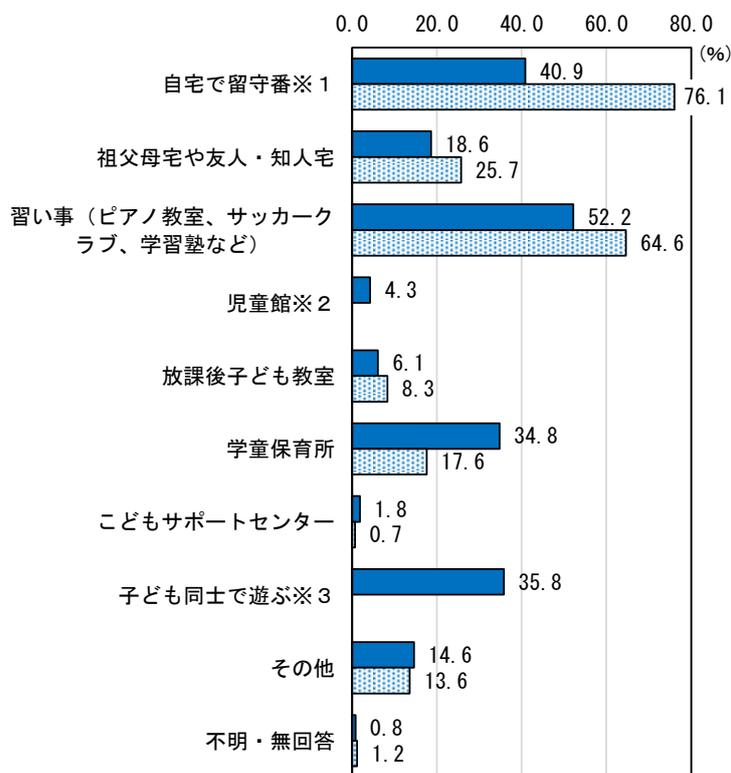
【小学校高学年(4年生以上)】



⑥ 放課後の過ごし方 <複数回答> (小学生児童)

放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方について、「習い事」が52.2%で最も高く、次いで「自宅で留守番」が40.9%となっています。

前回調査と比較すると、「自宅で留守番」が35.2ポイント、「習い事」が12.4ポイント減少、「学童保育所」が17.2ポイント増加しています。



- ※1 前回調査は「自宅」
- ※2 前回調査にはない選択肢
- ※3 前回調査にはない選択肢

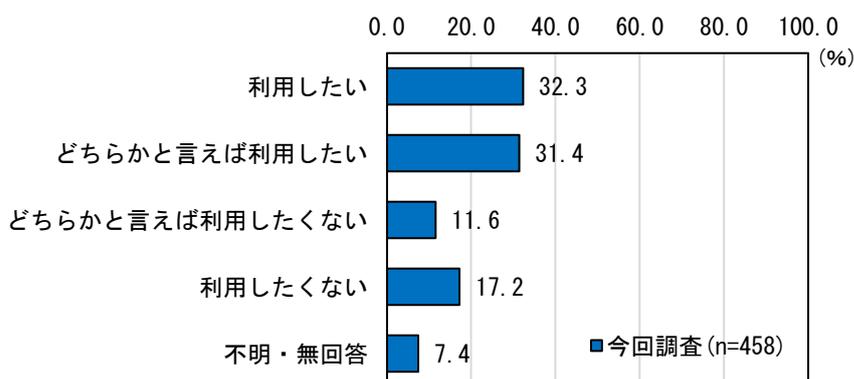
■ 今回調査 (n=494) □ 前回調査 (n=883)

⑦ 「こども誰でも通園制度（仮称）※」の利用意向 <単数回答>（就学前児童）

※「親が就労している」などの要件を満たしていなくても、誰もが定期的に保育施設などへ通えるようにする制度。（月10時間までの枠で、時間単位で利用できる仕組みを想定。）本市では令和8年度以降導入予定。

「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向は、「利用したい」が32.3%で最も高く、次いで「どちらかと言えば利用したい」が31.4%となっています。

子どもの年齢別にみると、いずれの年齢も、「利用したい（利用したい+どちらかと言えば利用したい）」が60%以上となっています。



【子どもの年齢別 こども誰でも通園制度の利用意向】

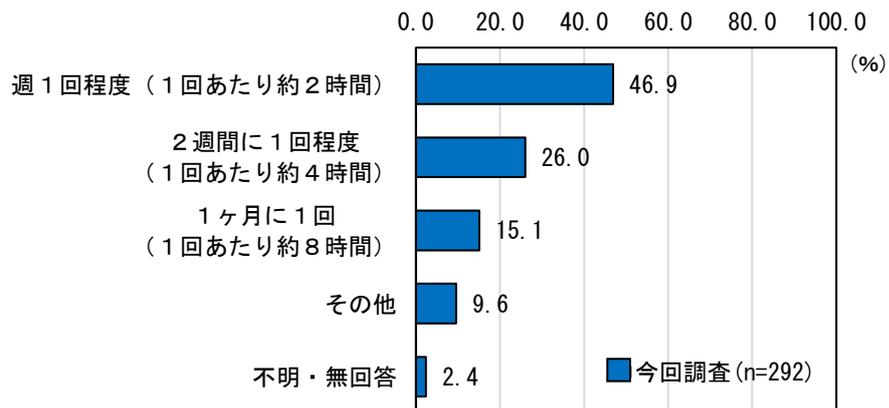
	合計	利用したい	どちらかと言えば利用したい	どちらかと言えば利用したくない	利用したくない	不明・無回答	【別掲】	
							利用したい	利用したくない
全体	458	32.3	31.4	11.6	17.2	7.4	63.7	28.8
0歳	47	27.7	42.6	6.4	17.0	6.4	70.3	23.4
1歳	61	32.8	31.1	11.5	16.4	8.2	63.9	27.9
2歳	74	37.8	28.4	10.8	17.6	5.4	66.2	28.4
3歳	67	31.3	35.8	14.9	13.4	4.5	67.1	28.3
4歳	75	24.0	36.0	14.7	13.3	12.0	60.0	28.0
5歳	133	35.3	24.8	10.5	21.8	7.5	60.1	32.3

「⑦こども誰でも通園制度」で「利用したい」「どちらかと言えば利用したい」を選んだ方

⑦-1 実際に制度を利用する場合、利用を希望する頻度 <単数回答> (就学前児童)

実際に制度を利用する場合、利用を希望する頻度は、「週1回程度」が46.9%で最も高く、次いで「2週間に1回程度」が26.0%となっています。

子どもの年齢別にみると、「週1回程度（1回あたり約2時間）」で50%を超えているのは、0歳と2歳となっています。



【子どもの年齢別 こども誰でも通園制度の利用頻度】

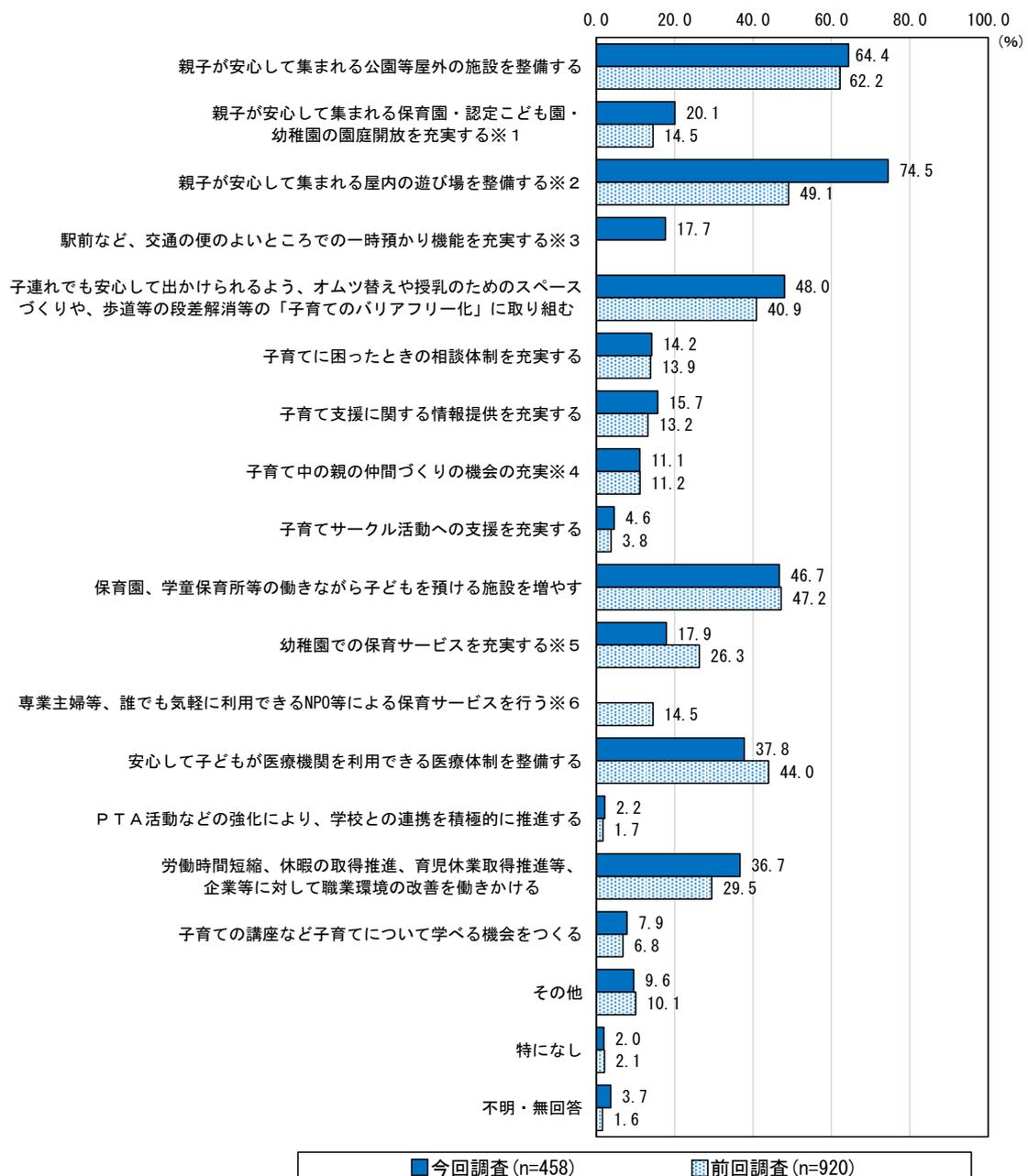
	合計	週1回程度 (1回あたり約2時間)	2週間に1回程度 (1回あたり約4時間)	1ヶ月に1回 (1回あたり約8時間)	その他	不明・無回答
全体	292	46.9	26.0	15.1	9.6	2.4
0歳	33	51.5	24.2	12.1	12.1	0.0
1歳	39	35.9	41.0	15.4	7.7	0.0
2歳	49	57.1	26.5	12.2	4.1	0.0
3歳	45	48.9	22.2	15.6	11.1	2.2
4歳	45	42.2	22.2	22.2	13.3	0.0
5歳	80	46.3	23.8	13.8	10.0	6.3

⑧ 大和郡山市に対して期待する子育て支援策 <複数回答（5つまで）>
 （就学前児童・小学生児童）

就学前児童で大和郡山市に対して期待する子育て支援策は、「親子が安心して集まれる屋内の遊び場を整備する」が74.5%で最も高く、次いで「親子が安心して集まれる公園等屋外の施設を整備する」が64.4%となっています。

前回調査と比較すると、「親子が安心して集まれる屋内の遊び場を整備する」が25.4ポイント増加しています。

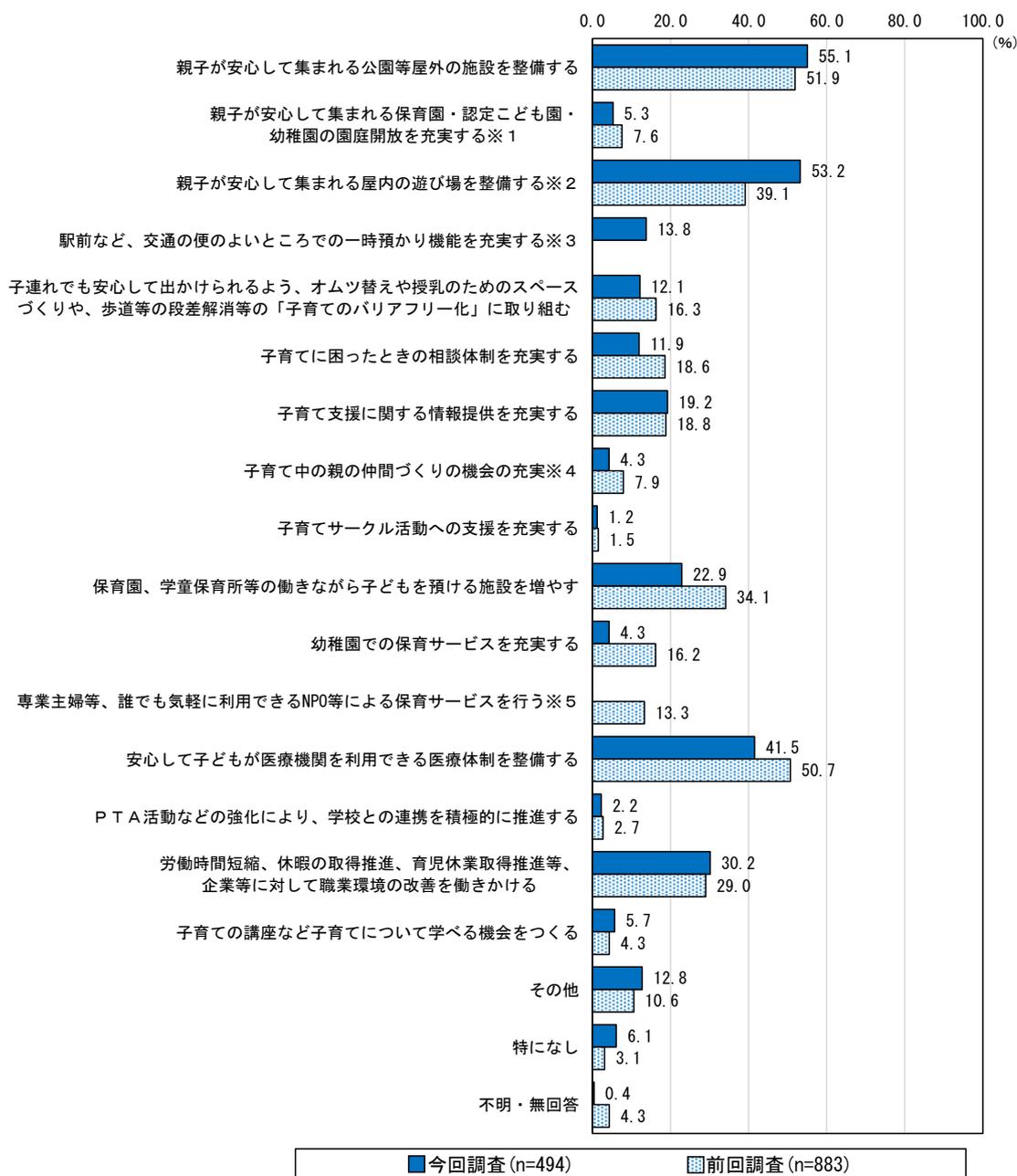
【就学前児童】



※1 前回調査は「親子が安心して集まれる保育所・幼稚園等の園庭開放を充実する」
 ※2 前回調査は「親子が安心して集まれる集いの広場等、屋内の施設を整備する」
 ※3 前回調査にはない選択肢
 ※4 前回調査は「子育て中の親の仲間づくりや子育ての知識・技能の取得に役立つ親子教室の開催回数の増加と内容の充実を図る」
 ※5 前回調査は「幼稚園での預かり保育等を充実する」
 ※6 今回調査にはない選択肢

小学生児童は、「親子が安心して集まれる公園等屋外の施設を整備する」が 55.1%で最も高く、次いで「親子が安心して集まれる屋内の遊び場を整備する」が 53.2%となっています。前回調査と比較すると、「保育園、学童保育所等の働きながら子どもを預ける施設を増やす」が 11.2 ポイント、「幼稚園での保育サービスを充実する」が 11.9 ポイント減少、「親子が安心して集まれる屋内の遊び場を整備する」が 14.1 ポイント増加しています。

【小学生児童】



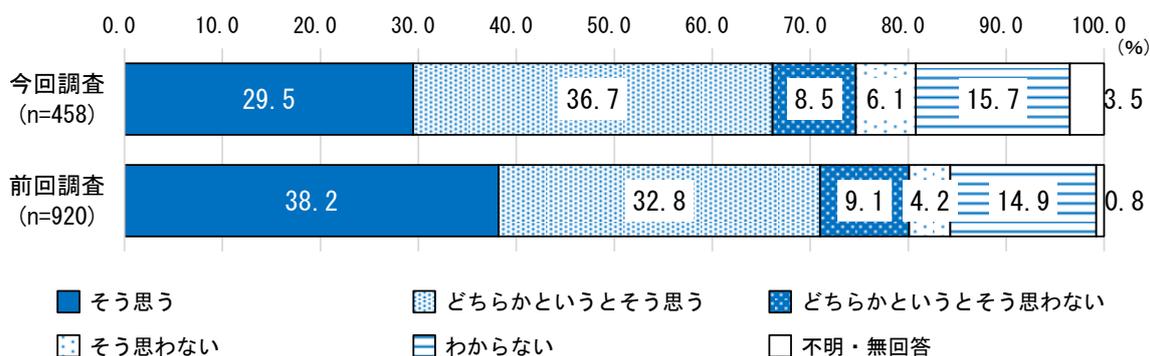
- ※1 前回調査は「親子が安心して集まれる保育所・幼稚園等の園庭開放を充実する」
- ※2 前回調査は「親子が安心して集まれる集いの広場等、屋内の施設を整備する」
- ※3 前回調査にはない選択肢
- ※4 前回調査は「子育て中の親の仲間づくりや子育ての知識・技能の取得に役立つ親子教室の開催回数の増加と内容の充実を図る」
- ※5 前回調査は「幼稚園での預かり保育等を充実する」
- ※6 今回調査にはない選択肢

⑨ これからもお子さんに大和郡山市で育ってほしいと思うか <単数回答>
(就学前児童・小学生児童)

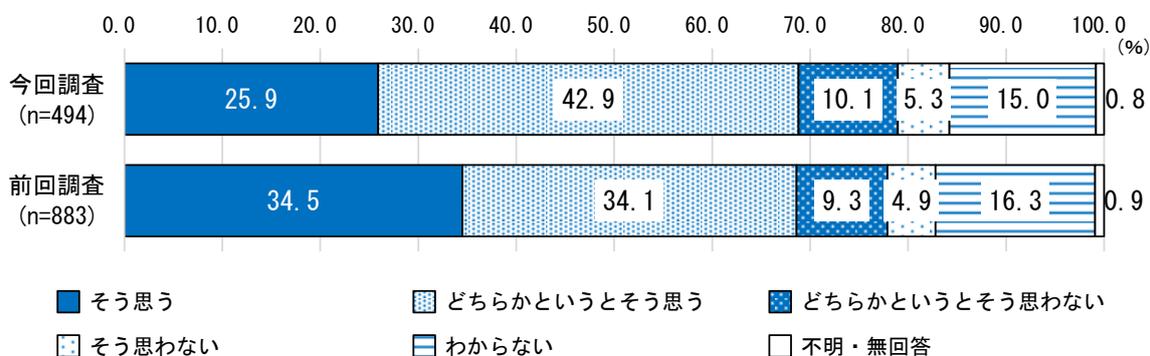
これからもお子さんに大和郡山市で育ってほしいと思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「どちらかというと思う」が最も高くなっています。「そう思う(そう思う+どちらかというと思う)」は就学前児童で66.2%、小学生児童で68.8%となっています。

前回調査と比較すると、就学前児童、小学生児童ともに、ほぼ同様の結果となっています。

【就学前児童】



【小学生児童】

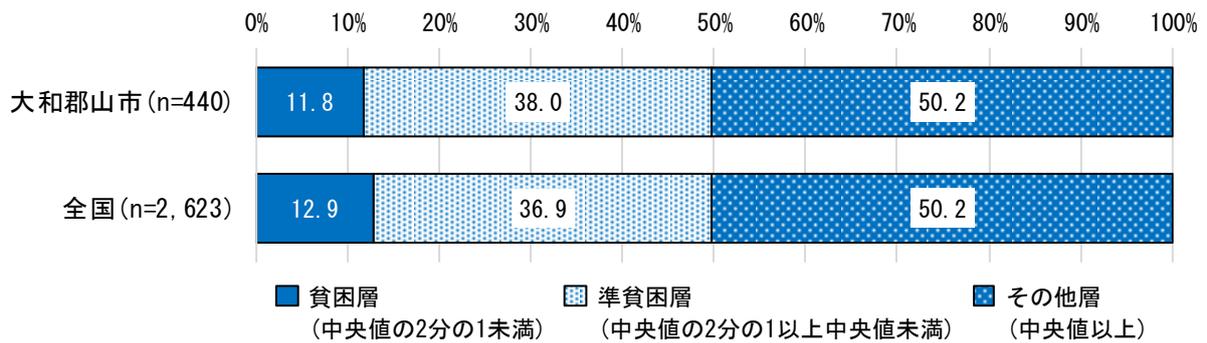


3. こどもの生活に関する調査（保護者・子ども）の結果

◆世帯の状況

本市の「こどもの生活に関する調査（保護者）」から算出した貧困層（相対的貧困率※）は11.8%となっています。令和3年度に内閣府が実施した「子供の生活状況調査」における相対的貧困率は12.9%となっており、大きな差はみられません。

【世帯の状況（等価可処分所得をもとに区分）】



※厚生労働省が実施している国民生活基礎調査における相対的貧困率の算出方法に基づいています。

① お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思うか <単数回答> (保護者)

保護者にお子さんの将来の進学先を尋ねたところ、全体では「中学、高校、大学」が55.4%で最も高く、次いで「まだわからない」が12.2%となっています。

世帯収入別で見ると、どの層も「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」が最も高くなっていますが、貧困層は30%未満と低くなっています。

【世帯の状況別 子どもの将来の進学先】

	合計	中学	中学、高校	中学、高校、専門学校	中学、5年制の高等専門学校	中学、高校、短大	等専門学校、大学	中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院	その他	まだわからない	不明
全体	466	0.2	10.9	10.7	1.5	2.4	55.4	5.4	0.9	12.2	0.4
その他層	221	0.5	5.9	5.9	2.7	1.8	66.1	6.8	0.0	10.4	0.0
準貧困層	167	0.0	13.2	13.2	0.6	3.0	51.5	4.2	1.2	12.6	0.6
貧困層	52	0.0	23.1	25.0	0.0	3.8	28.8	1.9	1.9	13.5	1.9

② 学校の授業がわからないことがあるか <単数回答> (子ども)

子どもに学校の授業がわからないことがあるかについてみると、全体では「だいたいわかる」が42.8%で最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」が24.4%となっています。

【世帯の状況別 学校の授業の理解度】

	合計	いつもわかる	だいたいわかる	教科によってはわからないことがある	わからないことが多い	ほとんどわからない	不明
全体	446	21.1	42.8	24.4	4.5	0.9	6.3
その他層	211	26.1	42.2	22.7	2.8	0.5	5.7
準貧困層	156	15.4	45.5	23.7	6.4	1.3	7.7
貧困層	49	10.2	44.9	28.6	8.2	2.0	6.1

③ 将来、どの学校に進学したいか <単数回答> (子ども)

子どもに将来の進学先の希望についてみると、全体では「中学、高校、大学」が29.6%で最も高く、次いで「まだわからない」が26.7%となっています。

世帯収入別でみると、「中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学」は貧困層で10%台と、ほかの層より低くなっています。

【世帯の状況別 進学希望】

	合計	中学	中学、高校	中学、高校、専門学校	中学、5年制の高等専門学校	中学、高校、短大	中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学	中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院	その他	まだわからない	不明
全体	446	0.9	14.6	12.6	1.1	2.5	29.6	6.7	0.0	26.7	5.4
その他層	211	0.5	8.5	10.9	2.4	2.8	34.1	9.0	0.0	26.5	5.2
準貧困層	156	0.0	17.9	13.5	0.0	2.6	28.8	3.8	0.0	27.6	5.8
貧困層	49	2.0	26.5	16.3	0.0	2.0	12.2	6.1	0.0	30.6	4.1

③で「まだわからない」以外を選んだ方

③-1 将来、どの学校に進学したいと思うかの理由

<「とくに理由はない」以外は複数回答> (子ども)

進学先を希望する理由についてみると、全体では「希望する学校や職業があるから」が46.9%と最も高く、次いで「とくに理由はない」が25.1%となっています。

【世帯の状況別 どの学校に進学したいと思うかの理由】

	合計	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	まわりの先輩や友達	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	不明
全体	303	46.9	16.2	15.2	7.9	6.6	2.0	2.3	3.6	25.1	2.0	
その他層	144	51.4	18.8	13.9	9.0	8.3	1.4	2.1	2.8	23.6	1.4	
準貧困層	104	47.1	11.5	15.4	7.7	4.8	1.0	2.9	3.8	24.0	2.9	
貧困層	32	34.4	15.6	21.9	6.3	9.4	9.4	3.1	9.4	25.0	3.1	

④ 週にどのくらい食事をしているか <単数回答> (子ども)

a) 朝食

朝食の摂取状況についてみると、全体では「毎日食べる」が84.1%で最も高く、次いで「週5～6日」が8.3%となっています。

世帯収入別でみると、「毎日食べる(週7日)」はどの層も最も多くなっていますが、貧困層は70%未満となっています。

【世帯の状況別 朝食の摂取状況】

	合計	毎日食べる(週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2日、ほとんど食べない	不明
全体	446	84.1	8.3	2.0	3.8	1.8
その他層	211	91.5	4.7	0.9	1.4	1.4
準貧困層	156	78.8	11.5	3.2	5.1	1.3
貧困層	49	69.4	16.3	4.1	8.2	2.0

b) 夕食

夕食の摂取状況についてみると、全体では「毎日食べる」が96.6%で最も高く、次いで「週5～6日」が0.9%となっています。

【世帯の状況別 夕食の摂取状況】

	合計	毎日食べる (週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2 日、ほとん ど食べない	不明
全体	446	96.6	0.9	0.0	0.4	2.0
その他層	211	97.6	0.5	0.0	0.5	1.4
準貧困層	156	97.4	0.6	0.0	0.0	1.9
貧困層	49	93.9	4.1	0.0	0.0	2.0

c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

長期休暇期間の昼食の摂取状況についてみると、全体では「毎日食べる」が89.5%で最も高く、次いで「週5～6日」が6.5%となっています。

【世帯の状況別 夏休みや冬休みなどの期間の昼食の摂取状況】

	合計	毎日食べる (週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2 日、ほとん ど食べない	不明
全体	446	89.5	6.5	1.8	0.2	2.0
その他層	211	91.5	5.2	1.4	0.5	1.4
準貧困層	156	90.4	7.7	0.6	0.0	1.3
貧困層	49	83.7	8.2	4.1	0.0	4.1

⑤ 友だちと比べて、家の手伝いをする時間が多いと思うか <単数回答> (子ども)

家の手伝いをする時間についてみると、全体では「普通だと思う」が41.3%で最も高く、次いで「少ないと思う」が32.5%となっています。

【世帯の状況別 進学希望】

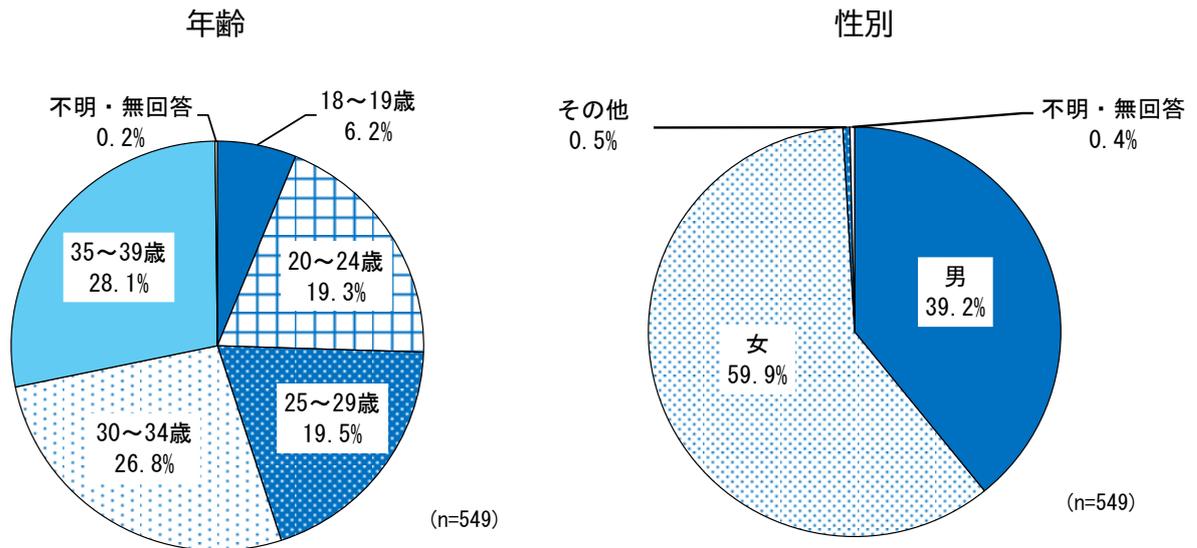
	合計	とても多 いと思う	多いと思 う	普通だと 思う	少ないと 思う	手伝いは していな い	不明
全体	446	4.0	9.6	41.3	32.5	10.1	2.5
その他層	211	4.7	5.7	46.9	29.4	10.4	2.8
準貧困層	156	2.6	14.7	35.9	34.6	10.9	1.3
貧困層	49	2.0	14.3	38.8	32.7	10.2	2.0

4. 若者調査の結果

◆年齢（令和6年7月1日現在）、性別 <単数回答>

回答者の年齢は、「35～39歳」が28.1%で最も高く、次いで「30～34歳」が26.8%となっています。

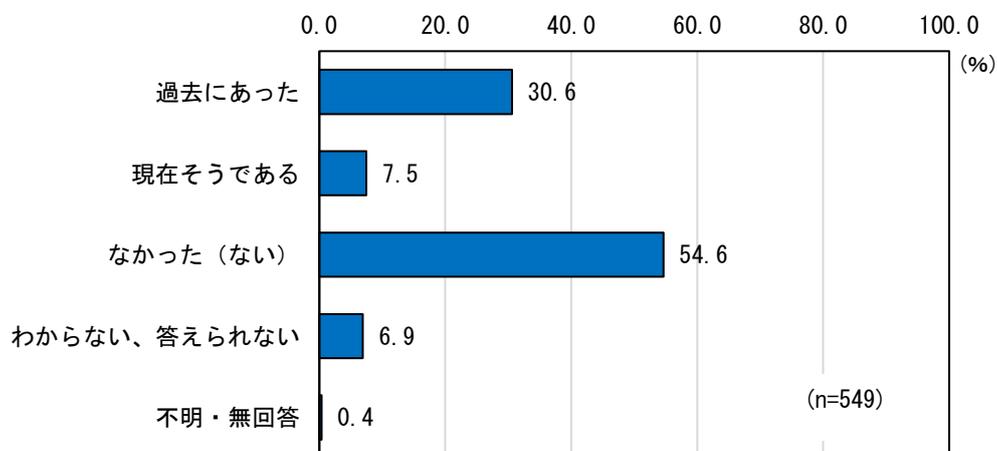
回答者の性別は、男性が39.2%、女性が59.9%となっています。



※「その他」は「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」

① 今まで（現在含む）、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験の有無 <単数回答>

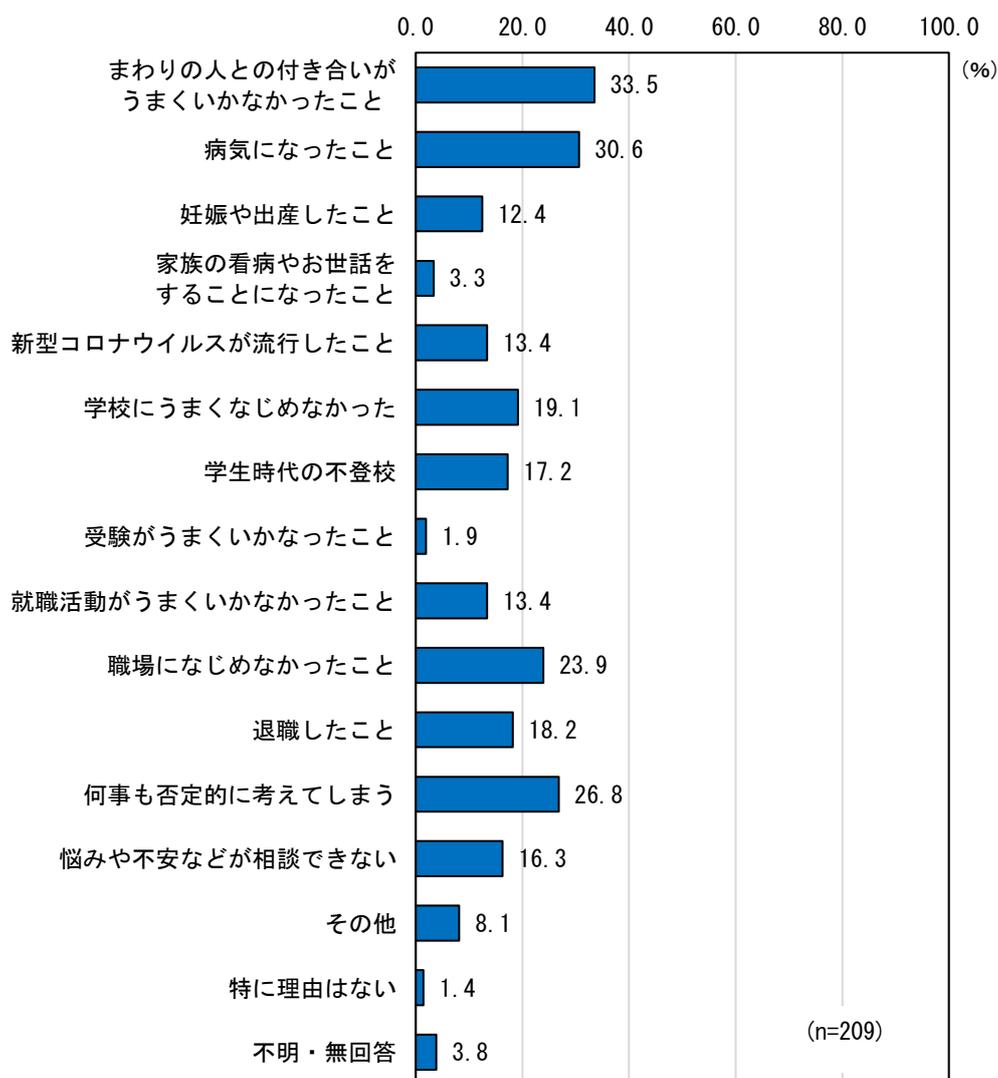
今まで（現在含む）に、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験は、「なかった」が54.6%で最も高く、次いで「過去にあった」が30.6%となっています。



①で「過去にあった」または「現在そうである」を選んだ方

①-1 そうした問題を経験した、または現在経験している主な原因 <複数回答>

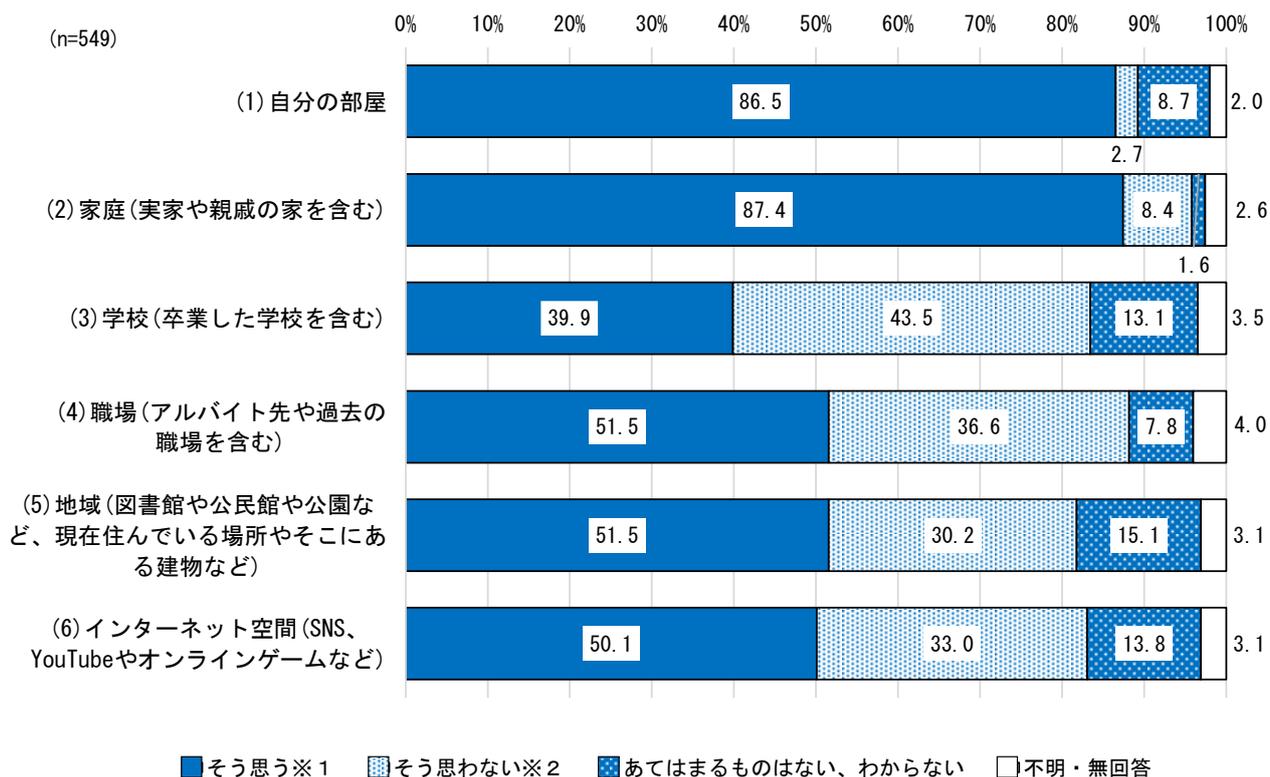
そうした問題を経験した、または現在経験している主な原因についてみると、「まわりの人との付き合いがうまくいかなかったこと」が33.5%と最も高く、次いで「病気になったこと」が30.6%となっています。



② 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所）になっているか <単数回答>

居場所についてみると、「そう思う」は「家庭」が 87.4%で最も高く、次いで「自分の部屋」が 86.5%となっています。

「そう思わない」は「学校」が 43.5%で最も高く、次いで「職場」が 36.6%となっています。

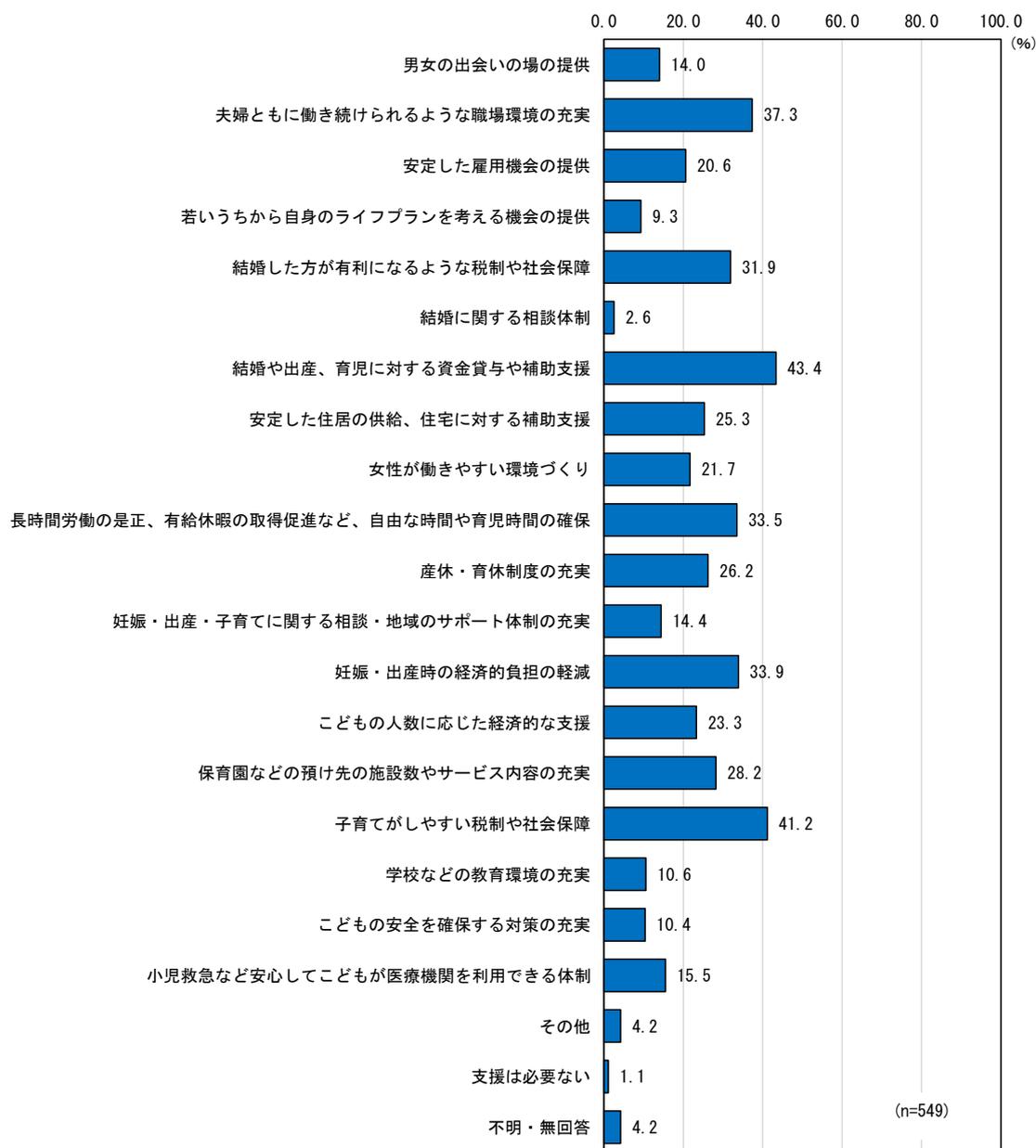


※「そう思う」は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

※「そう思わない」は「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

③ 結婚や出産、子育てしやすいと思える環境をつくるにはどのようなサポートがあれば良いと考えるか <複数回答（5つまで）>

結婚や出産、子育てしやすいと思える環境をつくるためのサポートについてみると、「結婚や出産、育児に対する資金貸与や補助支援」が43.4%で最も高く、次いで「子育てがしやすい税制や社会保障」が41.2%となっています。



④ 大和郡山市が取り組む若者の施策に望むもの <複数回答（5つまで）>

若者の施策に望むものについてみると、「安心して出産・子育てのできる環境づくりを進める」が63.9%で最も高く、次いで「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」が34.1%となっています。

